

# 水族館月報

№ 141

1964年5月

## 5月の入場者数

一 般		団 体		有料合計	特別観覧
大 人	小 人	大 人	小 人		
65,655	840	24,040	2,040	92,575	

前年度比	1963	1964	増 減
入場者総数	88,414	92,575	+4,161

## 水族館記事

- ◎ 3日 北浜の地引網より、マダラトビエイ（体長40cm）1個体が入槽したが、餌付きしないまま、13日に死亡。
- ◎ 4日 塔島東側岩礁で潜水採集を行ない、クマノミ、キヌバリ等を得た。クマノミは久しくこの附近の磯に姿をみせず、2年ぶりの採集である。
- ◎ 5日～25日 中水槽室各槽（№29～35）は、開放式で、しかも大量給水ができないので、これまで白点病の被害が最も大きかった。その対策として、№31・32・34の3槽に内式単独循環装置をセットし、単独戸過可能とした。
- ◎ 6日～15日 №24水槽のオオセ（4月30日入槽）が幼魚（17～18cm）9個体を産出した。この幼魚は、その後よく餌をたべ、元気である。
- ◎ 9日 近大養魚場より、ブリモドキの幼魚（全長5.7cm）が入槽。26日までに8.0cmに成長したが白点病のため死亡。
- ◎ 10日 雑賀崎一本釣漁師より、ハマダイ（全長50cm）1個体、ヒメダイ（15～19cm）15個体、ウメイロ（20～25cm）3個体を購入。

これらは、かなり深海性でスレに弱く、水槽での飼育が困難とされているが、試みに大型水槽（H・J）に収容してみた。ハマダイは翌日死亡。ヒメダイも月末までに10個体が死亡したが、ウメイロは全個体元気で、長期飼育できる見込みである。

- ◎ 12日 地引網より巨大なモヨウフグ（全長45cm）1個体が入槽。本種は老幼で体の斑紋が著しく異なる。幼魚はしばしば採集されるが、日本内地で成魚がとれるのは珍しい。
- ◎ 22日 田辺市江川港のエビ漕ぎ網漁師より、定期的に底生動物を購入することとし、その第1回として、シヤコ・テツボウエビ・テナガコブシガニ等が入槽した。
- ◎ 25日 餌料用のアサリ・オキシジミは、これまでR-2水槽で魚類と共に蓄養していたが、同槽の魚に白点病が発生したので、貝肉を与える魚類への感染を防ぐために、二枚貝専用の大型バット（110×70×15cm・開放式）を新設し、これに移収した。
- ◎ 31日 G水槽のタカアシガニ1個体死亡。飼育期間1年3カ月。これまでの死亡個体は、歩脚の大半を失って死に至るものが多かつたが、この個体は、右第2歩脚を欠くのみで、摂餌状態もそれほど悪くは見えなかつた。死因不明
- ◎ 5月の動物入手概況

#### 1. 採集作業

日時	採集場所	方法	人員	主な目的動物
4日午後	塔島東磯	SCUBA	3	小型磯魚
7日早朝	網不知湾内	1本釣	2	砂地の魚類
8日午後	海水浴場東磯	素もぐり	3	キヌバリ
12日 "	円月塔北磯	磯採集	3	潮間帯の動物
13日 "	"	"と素もぐり	5	"と小型魚類
18日 "	長場	素もぐり	2	ウミウシ類
22日夕方	北浜	"	1	モミシガイ類
27日午後	塔島東磯	SCUBA	3	小型磯魚

上記のほかに北浜地引網参加採集 7回

- 主な採集動物名（×印は1962年4月1日以降はじめての入槽動物）

無脊椎動物：ハナガサクラゲ・×カギノテクラゲ・サンゴイソギンチャク。

×トガリオウギガニ・シロウミウシ・×ヒメマダラウミウシ・×フタイロ  
ニシキウミウシ・×オトメウミウシ・ウグイスガイ・ニシキヒザラガイ・  
ハナイカ・ヒメコウイカ・スナダコ・タコノマクラ・アカオニナマコ・  
シロボヤ・ベニボヤ。

魚 類：マダラトビエイ・ヒバシヨウジ・ハマトビウオ・ハナハゼ・キヌバ  
リ・クマノミ・ミツボシクロズメ・カゴカキダイ・オニハタタテダイ・  
ナガハギ・アオサハギ・イシガキフグ・モヨウフグ・ハナミノカサゴ。

## 2. 購 入

先月にひきつづき、雑賀崎一本釣漁師よりの入槽が主であつたが、下旬には  
江川エビ漕ぎ網より、砂地の動物も多く集りだした。

### ○ 主な購入動物名

無脊椎動物：×ベニコエダ・シヤコ・テツボウエビ・×サメハダヘイケガニ  
・×コブカラツバ・×ツノナガコブシガニ・アサヒガニ・×ケブカエンコ  
ウガニ・×ツキヒガイ・×キンチャクガイ・×キンシバイ・×アラレガイ  
・×ウズラミヤシロ・メヒカリイカ。

魚 類：ハマクマノミ・ハナビラクマノミ・ミスジリュウキユウスズメ  
・×スミツキトノサマダイ・×ロリカリア・×ファイアマウス（以上外地  
産）×ハナアナゴ・モンガラドウシ・×アカタチ・アカアマダイ・  
ルリハタ・ホウキハタ・×サクラダイ・ヨコスジフエダイ・×トカゲゴチ  
・クロウシノシタ・×ゲンチヨ。

### ◎ 飼育状況

中旬より水温が20°Cを越えたので、№31・32・34・35・A・B  
・J・Kの各槽に白点病が統発したが、中水槽室の3槽（今月新設した内式単  
独循環装置は、まだ汙過細菌のはたらきが弱い）をのぞき、早期治療が効き、  
被害はわずかであつた。飼育動物種数は、次表のように、魚類、無脊椎動物と  
もに、これまでの記録を更新した。

5月31日現在、飼育中の動物は、総計476種、3,646個体以上で、そ  
の内訳は次の通り。このうち、観覧水槽に飼育、展示中の動物は445種、  
3,215個体以上。

カイメン類	3種	13個体	ゴカイ類	7種	16個体	イカ類	3種	8個体
ヒドロ虫類	3 "	10 "	カブトガニ類	1 "	1 "	タコ類	3 "	6 "
ハチクラゲ類	— "	— "	フジツボ カメノテ類	4 "	20 "	ウミダ類	3 "	13 "
ウミトサカ類	7 "	16 "	エビ類	17 "	214 "	ヒトデ類	10 "	207 "
ヤギ類	6 "	48 "	シヤコ類	2 "	30 "	クモヒトデ類	7 "	16 "
ウミエラ類	1 "	4 "	ヤドカリ類	9 "	111 "	ウニ類	12 "	134 "
イソギンチャク類	6 "	77 "	カニ類	45 "	164 "	ナマコ類	6 "	51 "
イシサンゴ類	10 "	53 "	アメフラシ類	14 "	41 "	ホヤ類	5 "	25 "
ツノサンゴ類	1 "	1 "	二枚貝類	22 "	409 "	軟骨魚類	11 "	78 "
ハナギンチャク類	1 "	12 "	巻貝類	38 "	525 "	硬骨魚類	213 "	1324 "
ヒモムシ類	1 "	1 "	ヒザラガイ類	2 "	3 "	カメ類	3 "	15 "

資 料

5月の気象（午前9時観測）

第1水槽室（水温・比重は16.24水槽）

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数：26	7	9	10
室温（°C）	$\frac{18.7 \sim 21.8}{20.0}$	$\frac{18.9 \sim 22.0}{20.5}$	$\frac{19.8 \sim 23.8}{21.8}$
水温（°C）	$\frac{20.00 \sim 22.14}{20.90}$	$\frac{20.36 \sim 22.20}{21.25}$	$\frac{21.00 \sim 23.00}{22.10}$
比重（15°C）	$\frac{24.96 \sim 25.90}{25.35}$	$\frac{25.33 \sim 25.60}{25.42}$	$\frac{25.21 \sim 25.65}{25.43}$

第3水槽室（水温）

H水槽（°C）	$\frac{20.6 \sim 22.0}{21.1}$	$\frac{21.6 \sim 22.5}{21.9}$	$\frac{21.7 \sim 23.6}{22.8}$
T-8水槽（°C）	$\frac{20.2 \sim 22.1}{21.0}$	$\frac{20.9 \sim 22.0}{21.4}$	$\frac{21.5 \sim 23.2}{22.3}$

海水取入口

水温（°C）	$\frac{20.28 \sim 23.36}{21.65}$	$\frac{21.00 \sim 24.00}{22.21}$	$\frac{21.94 \sim 23.76}{22.85}$
比重（15°C）	$\frac{25.07 \sim 25.62}{25.47}$	$\frac{25.04 \sim 25.67}{25.49}$	$\frac{25.17 \sim 25.76}{25.51}$

昭和39年6月15日(第141)

編集兼発行者 市川 衛

発行所 市都大学瀬戸臨海実験所

和歌山県西牟婁郡白浜町

電話(白浜) 2047・3515